福岡市教育センターＧ研研究主題　「書き出し，書き表す力を育てる作文指導法の研究」

第１学年　国語科学習指導案

１．単元名　　すきな　ものを　しらせるね　「ぼくんちの　ゴリ」
「よく　見て　かこう」

２．指導観

○　低学年で身につけさせたい書き出し、書き表す力

自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てを考える力 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書く力

○　本学級の児童の実態

本学級の児童は、１学期の「ひらがな」の学習で、書くことの第一歩を踏み出したばかりである。文字を正しく書くことを中心に学習してきた。文章を書くことについては、主述を合わせたり、句読点を間違いなく打ったりすることがなかなかできない状態だったが、行事の後に書く絵日記には、簡単な文なら１行から数行程度書くことができるようになった。

２学期になり、「てがみを　かこう」の単元で、「敬老の日に、校区のおじいさん・おばあさんにお手紙を出そう。」という目的を持って、相手に伝わるように文章を考える学習に取り組んだ。初めは、鉛筆の動かない子供が多かったが、いくつかの手紙の書き方をモデルとして示すことで、全員が３文から４文の手紙を書くことができた。実際に、手紙は校区のお年寄りに届けられ、中には返事の手紙を受け取った子供もいて、文章を書くことの喜びを感じているところだ。、

また、連絡帳を利用した「日記」を２学期になってから書き始めた。毎日、短い時間ではあるが、その日の出来事を「おかあさん、あのね、・・・。」という形で書くことで、書くことに慣れ、少しずつ書き方の工夫も覚えてきたようだ。「今日は、点と丸を落とさないように書こうね。」「今日は、自分の気持ちも入れて書こうね。」「今日は、音を入れて書こうね。」など、その日のポイントを一言与え、書き慣れる学習を積み重ねている。日記を書くと言うと、多くの子供がすぐに鉛筆を持って書き始めるが、なかには嫌がって書こうとしない子供も数名いる。書いた日記も１行～２０行と個人差が大きい。

このような子供たちに、書くことへのアンケートを行ったところ、次のような結果が出た。

１．国語の学習で、好きな物に○を付けて下さい。（複数回答可）

話すこと・聞くこと　…　１８人　　書　く　…　１６人　　読　む　…　２３人

２．文を書くことは好きですか。

大好き　…　１６人　　好　き　…　１１人　　嫌　い　…　５人　　大嫌い　…　１人

３．文を書くのが楽しいのはどんなときですか。（３つまで）

・書くことがすぐに思いついたとき　…　２０人
・書いたものを人に読んでもらうとき　…　１５人
・いっぱい書けたとき　…　２８人
・思うとおりに書けたとき　…　１８人

４．文を書くのが嫌なときはどんなときですか。（３つまで）

・書くことが面倒なとき　…　９人
・何を書いていいのか分からないとき　…　１７人
・書いたものを人に読んでもらうとき　…　１０人
・思うとおりに書けないとき　…　１０人

５．文を書いていて、困ったこと・分からないことはどんなことですか。

・何を書いていいのか分からない　…　１２人
・文の作り方が分からない　…　４人
・続きの文の作り方が分からない　…　５人
・読み直したときに、どこがよくて、どこがわるいのか分からない　…　９人
・どうすればもっとよくなるのか分からない　…　４人
・、や。の付け方が分からない　…　７人
・「は」「を」「へ」の使い方が分からない　…　５人
・小さな「っ」の使い方が分からない　…　４人

アンケートを見ると、文章を書くことが好きな子供が多い。特にほとんどの子供がたくさん書けたことに喜

びを感じている。しかし、自分が書いた文章の内容に目を向け、もっとよく伝わるようにしたいと願う姿はまだ見られない。

○　本教材の価値

本教材は、自分の大好きな犬「ゴリ」を紹介する本文から始まっている。「ゴリ」の姿や行動を細かく観察した文章は、作者のゴリへの愛情を感じ取ることができ、大好きだという気持ちが伝わってくる内容である。「ぼくんちの　ゴリ」では、少年が語りかけるような書きぶりで、「犬がいること」「名前」「性別」「年」「体の色」「首輪の色」「ひげ」「歯」「しっぽ」「耳」「得意なこと」など、ゴリのことが短くいくつも紹介されている。子供達にも「自分の好きな物を詳しく見て書くとよく伝わる。」ことを理解させやすい文章である。

本文を読み終えた後、「よく　見て　かこう」の学習に取りかかる。自分の好きな物を友達に知らせようという目的を持ち、よく伝わる文章にするため、対象をよく観察して文章にしていくのである。例文として教室で飼っている亀のことが書かれている。ここでも「動き方」「好物」などがその観点としてあげられており、「ぼくんちのゴリ」から具体的に見つけた観察の視点とともに子供達の作文のヒントとなっている。子供達は、自分の好きな物や得意なことを誰かに伝えたいという欲求をもっているものであり、本単元は書くことで表現し伝えていくことで、その欲求を満たすことができる単元である。相手と目的を明確にすることで、よく伝わるように書きたいという意欲は高まるであろう。

○　本教材で身につけさせたい書き出し、書き表す力

自分の好きな物を伝えたいという気持ちを持ち、対象をよく観察して、書き出すことができる力 よく伝えるために、もっと詳しく書いたり、表現をふくらましたりする力

○　書き出し、書き表す力を育てるための指導のあり方

〈導入では〉

本教材は、「ぼくんちの　ゴリ」を読んだ後、「よく　見て　かこう」で自分の好きな物を伝える文章を書く単元構成になっている。

「ぼくんちの　ゴリ」を読み、ゴリのことをよく観察して詳しく書いていることに気づかせる。ここで書いてある内容を「ゴリカード」に書き込ませることで、ゴリをどのような視点で捉えて観察しているのかに気づかせる。また、自分ならどんな視点で書くことができるか話し合い、視点を増やす。しっかり観察して書くことで、読んだ人に好きな物をよく伝えることができることをつかませたい。

次に「よく　見て　書こう」を読み、自分たちも「すきなもの」を作文に書くことを知らせる。子供達は、本来自分の事を知ってもらいたいという欲求を持っているものであるが、ここで目的と相手意識をよりはっきりさせる必要がある。

そこで、特定の友だちと遊ぶことの多い本学級の子供たちの実態から、学級活動等を利用して「お友だちともっとなかよくなろう。」という活動を取り入れる。活動の中で友だちのことを意外と知らない自分に気づかせ、自分のことをもっと知ってもらったり、お友だちのことを知ることで仲良くなれることを意識させておく。

この活動をふり返り、「おとだちに、じぶんのすきなものを　しらせる。」という目的と相手意識をしっかり持たせる。

〈取材では〉

まず、自分の好きな物を一つ決める。事前に調べた子供たちの好きな物は、ぬいぐるみや花など実際に手にとって観察できる「物」から、先生や家族という「人物」、サッカーや野球という「スポーツ」、「本」や「飛行機」など「たくさんの種類をまとめた物」まで様々であった。できるだけ子供たちの意欲を尊重するが、「ぼくんちの　ゴリ」でつかんだ視点を生かし、「よく見て詳しく書く」ためには、できるだけ「手にとって観察できる物」を選ばせたい。

次に「すきなものカード」を作る。自分が選んだ好きな物をよく観察し絵に描き、その周りにその物の特徴を吹き出しのように書かせる。この時、「ゴリカード」を想起させ、見つけた視点を生かして書くようにさせる。

〈記述（前半）では〉

「すきなものカード」に書いた吹き出しの一つ一つを短冊に文章として書かせる。短冊には１行空きに書かせるようにし、後で付け加えや書き直しが出来るようにしておく。その後、この短冊の中から、自分が作文に書きたいものをいくつか選ぶようにする。

〈練習学習では〉

ここでは「１文をふくらます」練習を全体で行う。教師が「自分の好きな物」を書いた短冊と実物を示し、もっと詳しくてよく分かる文にするためにはどうしたらいいか全体で考え、書き直したり、書き加えたりして文を作り直す。できあがった文を前の文と比較してその良さを実感させたい。その後、別の文を提示し、一人一人が文をふくらます練習をする。最後に、自分が書いた短冊のうち一つを選び、実際に自分の文をふくらますようにする。

〈記述（後半）では〉

自分の短冊の文をふくらまし、くわしくてよく分かる文を作る。

〈推敲（清書）では〉

短冊を並べて、ひとまとまりの文章にする。誤字・脱字や句読点の打ち間違い、「」の使い方をチェックカードを使って見直すようにする。

最後に、できあがった作文を一人一人発表し、よさを認め合って、書くことへの喜びを感じさせたい。

３　単元目標

○　好きな物を友だちに知らせるという目的をはっきりと持ち、よく伝わる詳しい文になるように工夫しようと意欲を持って書くことができる。
○　好きな物をよく観察し、表現を工夫して書き表すことができる。
○　「」や句読点を適切に使い、正しい言葉の使い方に気をつけて文を書くことができる。

４　学習計画（全１０時間　読む３時間　書く７時間）

配時	学　習　活　動	教師の支援　※書き出し・書き表す力育成のための支援
1	1．　「ぼくんちの　ゴリ」を読む。 2．　叙述や挿絵から、作者のゴリへの思いを考える。	○　「ぼくんちの　ゴリ」を読み、作者がゴリを大好きなことや、大好きだからゴリのことをよく見て分かりやすく書くことができていることに気がつかせる。
1	1．　「よく　見て　かこう」を読み、自分たちも好きな物を知らせる作文を書くことを知る。 2．　「ぼくんちの　ゴリ」を読み直し、作者がゴリをどのように観察して書いているのか、「ゴリカード」にまとめる。 3．　観察の視点をまとめる。	○　自分たちも「すきなもの」を知らせる文を書くのだから、作者のまねをしてみようと話し、作者がゴリのどこを見て書いたのか「ゴリカード」まとめさせる。 ※　どのような視点があるのかまとめる。 考えられる視点としては、 ・好きなもの・名前・年・性別・色・触った感じ ・形・動き・得意なこと・匂い・味・音・温度 ・大きさ・重さ・硬さ・強さ・素材・文字・理由 ・知っていること・思ったこと
2	1．　自分の「すきなもの」を選ぶ。 2．　「すきなものカード」を作る。	○　好きな物は、できるだけ手に取ってみられる物を選ばせることで、観察が具体的に出来るようにさせる。 ※　自分の好きなものや大切にしてるものを一つ選び、「ゴリカード」同様絵を描かせる。その周りに前時まとめた「視点」を生かしながら説明を書いていく。
2	1．　「すきなものカード」をもとに、好きな物を紹介する文を短冊に書く。 ○　カードの中から、自分が伝えたいことを選ぶ。 ○　観察したこと一つについて、短冊を一つ使い文を書く。 ○　短冊には、１行空きに文を書く。 2．　「」の使い方を学習する。	○　文に書き表す順番をカードに書き込ませ、簡単な組み立てを考えさせる。
1 本時	1．　教師が持ってきた実物とそれを紹介した文章を見て、感想を発表する。 2．どうすれば、もっとよい文になるのか考える。 3．一文を詳しくする練習をする。 4．自分の書いた文を詳しくする。	練習学習 詳しくてよく伝わるように書く。 ※　物の特徴をよく表す言葉を付け加えたり、言葉を入れ替えたりすることで、詳しくてよく伝わる文になることを実感させる。
1	1．　自分の短冊の文を書き直す。 ○　文を見直し、書き加えたり、書き直したりする。	○　書き加えが多すぎるとしつこい文になってしまうことをアドバイスする。
1	1．　短冊をまとめ、手紙を完成させる。	○　誤字・脱字、句読点や「」の使い方をチェックシートを使って見直す。
1	1．　できあがった文章を発表する。 ○　一人一人発表する。 ○　友だちの表現の良さを見つける。	○　友達の前で発表し、みんなでがんばりを認め合う。 ○　表現のよさを全体の場で発表させることで、書くことへの喜びを感じさせる。

５　本時　　平成１６年１０月２８日（木）

６　本時目標

○　言葉を付け加えたり、入れ替えたりすることで、詳しくてよく伝わる文になることを理解することができる。

○　自分の書いた文を見直し、言葉を付け加えたり、入れ替えたりして、詳しくてよく伝わる文にすることができる。

７　本時指導の考え方

本時は、言葉を付け加えたり、入れ替えたりすることで、詳しくて読み手によく伝わる文になることを実感し、実際に自分の書いた文を書き直すことが出来ることをねらいとしている。

前時までに子どもたちは、「自分の好きな物」を友だちに紹介するという目的を持って、「すきなものカード」を作っている。そして、そのカードをもとに、知らせたいことを選び、好きな物の特徴を表す一つ一つの項目ごとに短冊に文を書いている。

本時は、まず、教師が自分の好きな物をもとに作った「すきなものカード」の中から選んで書いた一つの短冊を見せる(例文１)。この時、出来るだけ簡素な文にしておき、実物がどのような物であるかつかみにくくしておき、後で言葉を付け加えることで、詳しく分かりやすい表現にすることが出来るようにしておく。その後、この文の寂しさや分かりづらさを出し合う。

その後、教師の自分の好きな物を子供たちに見せる。後で実際に触ったり、観察がよくできるように実物を用意し、子供たちの興味を引くことが出来るようにする。実物を見せた後で、初めに提示した文をもっと詳しくて様子がよく伝わる文になるように話し合う。子供たちの意見を教師が集約し、後から言葉を付け加えた文の方が、詳しくて様子がよく伝わるようになったことを実感させたい。

次に、もう一つの短冊に書かれていた文(例文２)を子供たちに示し、この文をより詳しくて様子がよく伝わる文になるように一人一人に書き直させる。この時、書くことが見つからない子には、実際に実物を触らせたりじっくり観察させたりして、書き加える言葉を見つけられるようにする。その後、書き直した文を発表し、表現の深まりを学級全体で確認したい。

最後に、自分の「すきなもの」をもとに短冊に書いた文を詳しくてよく伝わる文に書き直す。短冊にはあらかじめ１行空きに文を書いているので、その部分に付け加えたり、入れ替えたりした言葉を書き込ませる。書き直した文をグループの友だちと読み合い、相談しながらもっとよい文にならないか考えさせる。できあがった文と「すきなものカード」の絵をプロジェクターで投影し、前の文と比べてどこがどのように詳しくなったのか、比較がはっきりできるようにしておく。工夫したところを学級全体で認め、書くことの楽しさを実感させたい。

本時のまとめでは、、詳しく様子がよく分かる文章のよさをもう一度確認するとともに、自分たちでもよい文を作ることができることの素晴らしさを感じさせたい。

検証の視点

○　書き出し・書き表す力を身につける学習として成立していたか。

・　例文を全体で作り直す→例文を一人で作り直す→自分の文を作り直すという手順は有効であったか。

・　詳しくて様子がよく伝わる文に書き直すことのよさを子供たちが実感していたか。

（例文１の書き直しを教師が黒板で文をまとめる、例文２の書き直しを紹介する、自分の文の書き直しを紹介する、という活動は有効であったか。）

８　本時の展開

学　習　活　動	○教師の支援※書き出し・書き表す力を育てるための支援
１．　教師の「すきなものカード」を見て、例文１を読み、感想を出し合う。 例文１「　　。」	○　例文はできるだけ簡素な文にすることで、後で子供たちが言葉を付け加えやすくしておく。
○子供たちの反応 ・短くて、よく分からない。 ・つまらない。おもしろくない。	※　なぜよく分からない文になっているのか、その理由をはっきりとさせ、よい文に変えていく必要かんを持たせる。
２．　「すきなもの」の実物を見て、例文１を短冊に作り直す。 ○　書き加えた方がいい言葉や、書き直した方がいい言葉を発表する。	※　実際に実物をみせることで、様子を具体的に観察できるようにする。 ※　書き加えた方がいい言葉や書き直した方がいい言葉を発表させる時には、なぜその言葉がいいのか、理由をはっきりさせる。 ※　書き直した文を前の文と比べさせ、その良さを実感させる。
３．　本字の学習のめあてを確認する。 学習のめあて もっとくわしくて、「すきなもの」の ようすが　よくつたわるぶんに　しよう	
４．　例文２を一人で書き直す。 例文２「　　。」 （１）　例文２を読んで、もっと詳しくて様子がよく伝わる文にすし、短冊に書き込む。 （２）　書き直した文を発表する。	※　よい言葉が思いうかばない子供には、じっくり観察させたり、さわらせたりする。その時思った言葉を、その場で口に出させ、書き加えるように助言する。 ※　書き直した文を発表するだけでなく、その良さを子供達に見つけさせる。
５．　自分の文を書き直す。 ○　選んでおいた一つの短冊の文をもっと詳しくてよく伝わる文にする。	※　「すきなものカード」をしっかりと見せ、自分の好きな物を思い起こさせる。手が止まっている子には、好きな物を思い出せるように、教師が好きな物について質問し、答える活動を取り入れる。
６．　グループの友達と、書き直した文を読みあう。 ○　もっとよく伝わるようにするためにどうし	※　自分の好きな物について説明を加えながら、もっとよい

たらいいのかアドバイスをする。 ○　アドバイスをもとに書き加えたり、書き直したりする。	言葉がないか友達と話し合わせる。
7．　書き直した文を発表する。 ○　プロジェクターで投影された文とカードを見ながら、友達の工夫の良さに気づく。 8．　学習のまとめをする。	※　以前に書いていた文をもとに、どのように書き直したのかが分かるように、１行空きに短冊に書かせておく。 ※　表現の良さを学級全体で確認し、詳しくて様子がよく伝わる文にすることの良さを感じることができるようにする。